

重かさねて楓橋ふうきょうに宿しゆくす（張継ちようけい）

白髪重来一夢中 青山不改舊時容  
鳥啼月落寒山寺 欹枕猶聽半夜鐘

白髮はくはつ 重かさねて 来きたる 一夢いちむの 中うち

解説 張継が再び蘇州を訪れて「楓橋夜泊」を思い出して作った詩と言われる。

青山せいざん 改あらたまらず 旧時きゆうじの 容すがた

語釈 ※青山 青い山。 ※旧時容 昔のままの姿。  
※鳥啼：からすが啼くこと。 ※寒山寺 蘇州の西郊七里の所にある寺。 ※猶 そうですね。 ※半夜 夜中。

鳥からす 啼なき 月つき 落おつ 寒山寺かんざんじ

通釈 しらが頭になってふたたびこの地にやって来た。夢の中

枕まくらを 欹そはだてて 猶なお 聴きく 半夜はんやの 鐘かね

にいるようだ。周囲の青い山はまったく昔のままの姿であった。鳥が啼き、月が西に傾くころ、寒山寺から今夜も夜半の鐘が響きわたってきたので、枕をななめにして聴き入ったことである。